

### 3 1. 令和4年度全国てんかん対策地域診療連携整備体制事業報告書

(2022年1月～12月)

報告者：沖縄赤十字病院脳神経外科部長 沖縄てんかん拠点病院責任者  
饒波正博

#### 活動報告

令和3年4月1日より脳神経外科医（てんかん専門医）1名増員となり、当院のてんかん専門医は3名となった（脳神経外科1名、小児科医1名）。これによって治療部門は充実し、令和3年10月には日本てんかん学会から、てんかん専門医認定研修施設に認定された。懸案だったてんかんコーディネーター欠員の問題も、令和4年4月に1名（薬剤師）、10月にさらに1名（理学療法士）の計2名がてんかんコーディネーターに任命された。両者ともてんかん診療支援コーディネーター研修会を3回受講しており、今後の活躍が期待されるが、どちらも自身の専門業務と兼任であり、拠点病院業務におけるそれぞれの役割についてはまだ確定されていない。なお、てんかんコーディネーターには病院事務部参事のサポートが付くことになっている。以上、人的には充実しつつある。

一方、てんかん診療以外の拠点病院事業は、てんかん治療医療連携研修として令和4年4月より指導者を招いて月1回の脳波カンファレンスを対面かつ公開形式で開催した。公開をしていますが、対面形式だけでは参加者が限られるため、インターネットを活用した対面＋ネットのハイブリット開催をめざしたい。治療医療連携協議会（てんかん協議会）やてんかん啓発事業は、目的、動員法などいまだ暗中模索の中にあり、十分に行いえなかった。

#### 1) てんかん診療

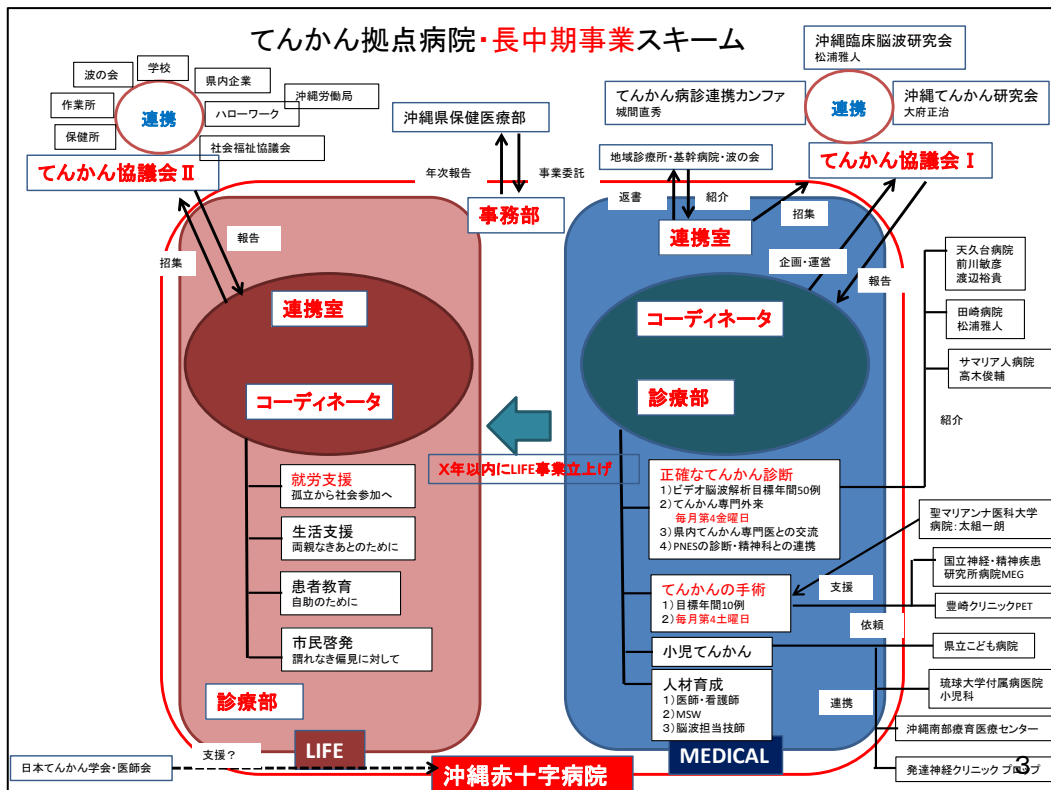
コロナウイルス感染拡大は今年も拠点病院事業に影響を及ぼした。具体的には入院、ビデオ脳波件数の低下に反映されている。一方てんかん専門医増員による一昨年からのてんかん専門外来増設の効果が、外来の診療総数、診療患者数の増加として現れてきた。てんかん相談数が増加しているが、特別な窓口を開設したわけではなく、てんかん専門医が通常外来で行っている相談対応をチェックして単純に数え上げたものである。相談内容を分類してそれぞれに担当者を付けていく方針である。相談対応は、機械的に処理できるものから関係者カンファレンスを開くものまでであるので、一部のスタッフに業務を集中させてしまうと対応が単純化・凡庸化するので注意が必要である。てんかんの手術は、これまでに施行してきた迷走神経刺激装置の電池交換が集中した。今後も手術件数の一定数はこの手術で占められると考えられる。

2022年（令和4年） 沖縄てんかん拠点病院診療実績（1月～12月）	
てんかん外来	診療総数2365(2203), 診療患者数584(345)
新紹介患者	82(123)
てんかん相談	110 (45)
入院	75 (73)
ビデオ脳波	23 (25)
てんかんの手術	17 (14)
選択的海馬扁桃体切除術	1 (3)
側頭葉切除術	0 (0)
脳梁離断術	4 (6)
迷走神経刺激装置設置術	2 (3)
迷走神経刺激装置電池交換	8 (2)
頭蓋内電極設置術	1 (0)
頭蓋内電極除去術	1 (0)

カッコ内数字は2021年実績

## 2) てんかん患者生活支援

まず平成 30 年（拠点病院開設時）に作成した、てんかん拠点病院の中長期事業スキームを以下に示す。



細かい部分は修正が必要になっているがこの事業スキームでは、医療（MEDICAL）事業をまず立ち上げ、「X年以内に LIFE 事業立ち上げ」と明記され、生活支援（LIFE）事業では、新たな協議会、てんかん協議会 II を立ち上げることになっている。今年度は生活支援

(LIFE) 事業立ち上げのための活動を開始した。

てんかん患者に特化した生活支援とは何か？それはありうるのか？ここに疑問と行き詰まりを感じていたので、最初を対象者のレンジを広くとり、「病期や障害を持ちながら日々生活している方々を支援していく」を主要コンセプトにラジオ番組を制作し放送した。幸い民間企業から賛同が得られ、同社からラジオ番組制作のための資金提供をいただいた。番組は、令和4年4月から9月までの6か月間週1回10分、計26本の番組が地元のラジオ局RBCiラジオで放送された(資料2)。

ドクトル・ノウの この処方はいかが？			
病気や障害を持ちながら日々生活している方々を支援していく番組です。 この目的のために、一つのトピックを立て、それを数回に渡って深掘していきます。			
月	回数	トピック	モチーフ
4月	1~5	就労について	”働かざる者食うべからず”なのか？
5月	6~9	癌と生きる	「あとは美味しいもでも食べて過ごしてください」から緩和医療へ
6月	10~13	依存症について	”やめられないとまらない”には「強くなるより賢くなれ」と
7月	14~17	発達障害について	発達障害者は増えているのか？
8月	18~22	親なきあとの子の生活	ノーベル文学賞作家パールバックもこの問題に悩んだんだ
9月	23~26	家族	”家族”が、、、ちょっと重すぎる！

番組制作の議論の中で、生活支援は、例えばてんかん患者のみと対象を限定すると見えづらくなってしまいう部分が出てくるのではという意見が提出された。今後開催予定の生活支援のためのてんかん協議会Ⅱでは、まずは支援の対象者を広くとって議論を開始しようと考えている。

### 3) 地域連携・啓発活動

てんかん県民講話→コロナ感染拡大のため中止

#### ・啓発動画作成

沖縄てんかん拠点病院サイト(沖縄赤十字病院HP内)に啓発動画を掲載

タイトル: シリーズてんかん (No.1~No.6、追加作成中全13回)

→今年度新作は制作できなかった。



・脳波カンファランス(日時; 毎月第4月曜日18時より、場所; 沖縄赤十字病院第2会議

室)

指導：松浦雅人先生（田崎病院）

内容：松浦先生による脳波についてのミニレクチャーに続き、外来での脳波をメインに解析する。

仕様：参加予約の必要なし。対面のみ、ネット配信なし。

### 3) てんかん協議会について

- ・年1回開催（3月）
- ・2022年度は年度末にネット開催を行う
- ・協議会メンバーは以下

資料1		
てんかん協議会構成員17人		
1	石内 勝吾	琉球大学医学部付属病院 脳神経外科 教授
2	嘉数 清美	日本てんかん協会 沖縄県支部事務局 代表
3	嘉手川 淳	沖縄赤十字病院 神経内科 部長
4	篠崎 裕子	沖縄県立八重山病院 院長
5	城間 直秀	発達神経クリニック・ブロップ 院長
6	平良 直樹	医療法人 天仁会 天久台病院 院長
7	竹井 太	うむやすみやあす・ん診療所 院長
8	太組 一朗	聖マリアンナ医科大学 脳神経外科 准教授 てんかんセンター 副部長
9	仲村 貞郎	琉球大学医学部付属病院 小児科
10	饒波 正博	沖縄赤十字病院 脳神経外科 部長 てんかん拠点病院責任者
11	比嘉 秀正	ちばなクリニック 神経内科
12	近藤 毅	琉球大学医学部付属病院 精神科 教授
13	松浦 雅人	田崎病院 精神科
14	宮川 治	沖縄県立総合精神保健福祉センター所長 沖縄県保健所長会長
15	山川 宗貞	沖縄県保健医療部地域保健課長
16	比屋根 真彦	沖縄赤十字病院 小児科
17	廣中 浩平	沖縄赤十字病院 脳神経外科

### 資料2

シルバーウッド石垣オフィスプレゼンツ

# ドクトル・ノウの この処方はいかが？

放送時間：毎週水曜日 午前9時50分～

RBCiラジオ

※4月6日（水）午前9:50放送スタート



ドクトル・ノウ

MC 菊地志乃



番組  
ホームページ

番組  
YOUTUBE

番組  
ツイッター